

4つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております



小手澤の森

第1・3日曜日



知足の森

第1・3日曜日



相模湖・嵐山の森

小原本陣の森

不定期活動

News Letter NPO法人緑のダム北相模 *midorinodam.jp*



【定例活動報告】 本年もどうぞよろしくお願ひします

2026年の活動を開始しています。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。昨年は12月に毎年恒例のエコプロダクト展に出展しました。エコプロ展は本会としては例年の活動の成果報告の場としており、1年間かけて制作したものを展示する場となっております。今年は1年生が作った、森の学習ができるループゴールドバークマシン、いわゆるピタゴラ装置のような「ビー玉森助間伐大冒険」や間伐材で作った森のガチャやカードケース、テッシュボックスなどを展示しました。いずれもShopBotやレーザー加工機を中心にして製作されており、こちらはデジタルファブリケーションとか、デジタルものづくり、と呼ばれるものです。これまでの間伐材にはな

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと…。



い活用方法であったり、そもそも中高生でもデジタルを活用して製作すれば、精度の高いものづくりができる、ということろがアピールポイントでした。紹介冊子を200部用意しましたが、それ以上の方に来場いただきまして、活動の広報をすることができました。

宮村 連理（本会、副理事長）

【定例活動報告】知足の森

私は今回の森の活動で2つのことを学んだ。1つ目は、間伐をするときの木を倒す位置について。その時迷った事は、空を明るくすることが大切か、曲がった気を切ることが大切か、倒した時に他の木に引っかかることが大切か、のどれを優先すればいいかと言うことだ。場所的には残したいが、木の形的には切った方が良い木と、場所的には悪いが木の形は真っすぐで残したほうが良い木の2本で迷った。結果、2つ3つに枝分かれしている形の悪い方の木をしたところ、他の木にも引っかからず倒してくれたためとても気持ち良かった。倒れた木は、思っていた以上に枝分かれしていたため、本当に切ってよかった。このことから、間伐する木は形が悪い木材にならなそうな木がいいということを学んだ。2つ目はノコギリの安全な使い方について。私は今日、小さな木を切っている時、ノコギリを木から押し出したと同時に反対側で木を抑えていた左手の親指にノコギリが少し当たってしまった。少し刃が指に触れただけで切れてしまったため、ノコギリの歯は鋭く、抑える指の向きを考えていないと危ないということがよくわかった。特に縦に長い間にノコギリの歯を地面と平行にして切るときは抑える手の位置を気をつけて切ることが大切ということを学んだ。とにかく大きな怪我しなくてよかったと思う。今日学んだことを、次回の森にも生かして今日よりも、うまく木を切りたい。

青木 千縁里（GTE LAB 中学1年女子）

今回は、森の整備を多くやった。最初、坂になっているところにとても草が多く生えていて、その草を刈るのを頑張った。ひつつき虫が多く、とるのが大変だった。

その作業を頑張ったあとは、年内最後ということで、森のお疲れ様会をした。焚き火の火を起こすのは友達がすごく苦戦していて、火がついた時の達成感はすごかった。焚き火がついた後は、森の中にある竹で作った串の先にマシュマロをつけて焼いた。焼いたマシュマロの中はすごくとろとろで、美味しかった。他にもクラッカーや、友達が持ってきていた大きなマシュマロがあった。その楽しいことが終わったあとは、また作業で、来年、木を切る森の草を刈ったり、木を切ったりした。草を刈ったあと、すぐ木を刈ったり、その木の後処理をしたり、次にどこを刈るのか考えながら行動した。

梶原 陽樹
(GTE LAB 中学1年男子)





桜井尚武の 森のコラム



図1 植林地に混った斜め上両側に真っ直ぐ枝葉を伸ばすモミ

20160811 青梅線二俣尾駅

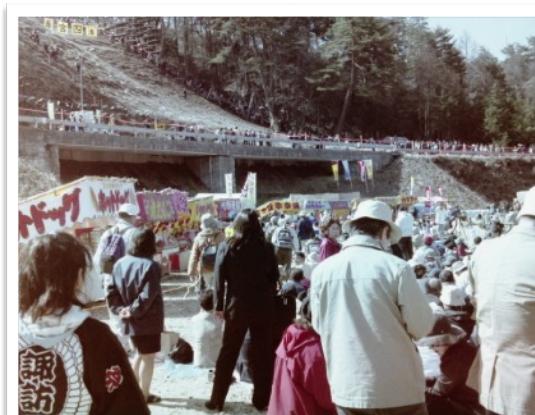


図2 御柱祭木落し会場は向かいの坂、30年以上昔の写真



図3 96mm×48mm×12mmの板24枚セットの図

20251225 ¥799の値付、多様な使い道があるとの説明（×
ルカリより引用）

「モミ (*Abies firma*) と ウラジロモミ (*Abies homolepis*) その2」

関東とその周辺部のスギやヒノキ林には若干数のモミの混交が見られます。何故、植林地にモミの木が残るのか、疑問に思っていました。モミの材は棺や卒塔婆等の葬祭用に使われる、材は強度や耐久性に乏しく価値が低いと長いこと思っていました。しかしこれは世評であって実際には内装材や建具材、家具材、器具材、包装材、鑑賞樹木など広範な用途に使われていました。日本のスギ・ヒノキ材が安価な外材に販路を奪われて価格が低迷していると長いこと言われ、今もそう語られていますが、これも世評だろうと思います。外材として日本に今でも多く輸入されているのが北米材でモミ材はその大きな部分を占め、大手のプレハブ住宅に多用されています。国産モミ材もその一部を担っています。さて、何故モミが残っているかですが、材木として売りにくいので残しているという以外に、大木となったモミに神性を感じるという山主の気持ちの表れという気がします。大木に畏敬の念を抱かない山主は雑木の一種として除去してしまっています。

モミに神性を抱き神が降臨する依代（よりしろ）として祭祀の対象とするものでは諏訪の御柱祭が有名です。平安時代以前から1,200年の歴史を持つ諏訪大社の神の降臨する場である上社2宮、下社2宮の4隅の柱を6年ごとに建て替える行事です（図2）。この柱に直径60cm～90cmのモミの大径木を16本必要とします。このため東保国有林（標高1104m）のウラジロモミ材が提供されます（国家的行事になってるのですね）。国有林では「御柱の森」を定めて今後も供給するとしています。前回の御柱祭では直径60cm～90cmの材が使われこのうち90cm以上の材は10本あったそうです。

案外知られていない用途にかまぼこ板があり、モミ材は第一級の価値があるとして大きなシェアがありました。板があるのでかまぼこが傷まない、品質保持のための必需品だそうです。白木の材は匂いがなくかまぼこに変な影響を与えません。林野庁がスギ材をかまぼこ板に使って欲しいと業界に要望しそれに賛同するかまぼこ店も現れたのですが、いまだに大半はモミ材の独壇場みたいです。ネットをみたらモミ材のかまぼこ板を販売しているものがありました。

96mm×48mm×12mmの板24枚セットで799円でしたが早々と完売になったそうです（図3）。この数値から計算すると、1m³の材から18,084枚採れ、歩留まりを60%として10,850枚採れて24枚組のセットが452セット採れ、1セット¥799で売れれば361,148円の売り上げとなります。ここから諸経費を引いてこの場合のモミ材の収益が決まるになります。モミでも売り方によっては有利な商品になる例ですね。モミの木の用途は大きく広い様が解り、材の用途の多様化を改めて知ることが出来ました。

桜井 尚武（本会、会員）

【活動報告】学芸大のイベントに参加協力＆国分寺市立中学で前授業報告

エコプロ展に続き、学芸大学が北海道教育大学と共に開催した「駿祭×Ongoing！×Hue未来ラボ 合同イベント」に中高生が同時活動しているGREEN TECH ENGINEER LABとして参加協力してきました。展示物は基本エコプロ展と同じもので、スペースの関係で模様替えし、大学講義等のスペースで展示、紹介しました。このイベントはまだ「未完成」であるものを互いに紹介しあい、アドバイスをもらい、各々のプロジェクトを推進しようというものです。自分たちの活動以外にも、他校の中学生、高校生が発表するブースもいくつかあり、自分たちの活動のレベルや足りない部分など直接比較できるという学びがあったようです。

また、国分寺市立第四中学校での国分寺学の講座の一つとして森とSDGsをテーマに2時間の講義と森のボードゲームを実施してきました。こちらでは1から3年生のうち、森をテーマに興味がある生徒が集まり、活動の面白さや意義を少しでも感じてもらえたかと思います。定例活動も紹介したので、この授業から参加者が増えてくれればと思います。

宮村 連理（本会、副理事長）



NPO法人 緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人 緑のダム北相模

現地事務局：〒252-0172 相模原市緑区与瀬本町12 かどや食堂内

支援団体：セブン-イレブン記念財団

積水ハウスマッチングプログラム

国土緑化推進機構・緑の募金

ChangeX (AWS助成)

協働団体：神奈川県、相模原市、小金井市、マルモ出版、

東京学芸大学環境教育研究センター、

(社) 東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴 成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危機管理・救急体制・森林ボランティア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

